令和６年度第2回秋田県立美術館運営協議会（書面開催）要旨

１　書面開催について

書面開催の方法は、報告・協議事項について、協議会委員から意見を徴収して集約したものに、秋田県立美術館指定管理者（公益財団法人平野政吉美術財団）の回答及び考えを付して会議録とする。

２　書面提出委員（50 音順、敬称略）

加藤 隆子　　齋藤 るみ子　　長瀬 達也　　藤田 亜樹子　　山崎 宗雄

３　報告・協議事項及び意見を求める項目

（1）報告事項

① 令和6年度 事業概要について

② 令和6年度 月別入館者数

③ 令和6年度 展覧会別入場者数

④ 令和6年度 県民ギャラリー入場者数

⑤ 令和6年度 セカンドスクール的利用者数

⑥ 令和6年度 ミュージアム活性化事業（特別展）外部評価集計表

⑦ 令和6年度 ミュージアム活性化事業（特別展）来場者アンケート集計表

⑧ 令和6年度 ミュージアム活性化事業（特別展）分析

（2）協議事項及び意見を求める項目

① 令和6年度 秋田県立美術館の事業について

・ 展覧会事業（特別展3本）について

・ 展覧会事業（企画展2本）について

・ 教育普及事業（セカンドスクール、各種教室等）について

② 県民ギャラリーの利用状況（利用者数、利用促進のための御提案など）について

③ その他

4　委員からの御意見・御提言等並びに秋田県立美術館指定管理者の回答

①　令和 6 年度秋田県立美術館の事業について （1）　展覧会事業（特別展「日本の洋画」「深堀隆介」「ロートレック」）について	
委員からの御意見・御提言等	指定管理者の回答
○「日本の洋画 130 年」は久々の日動画廊コレクション展示であり、質量の厚みを改めて感じた。キャプション解説の分量など一部検討が必要と感じたが、日本洋画の曙から近代の流れをたどるアカデミックで秀逸な企画であった。	●「日本の洋画 130 年」では、「作家解説」と「作品解説」をほぼ全ての作品に設置したため、文字情報が多くなってしまった。今後は全体にメリハリをつけたパネルづくりを心がけたいと考えている。
○「深堀隆介展」は夏休みを挟んでの開催、ファミリー層を中心に、幅広い年代が楽しめる内容で、県内の入館者が全体の四分の三を占めたことは特筆すべきことと思う。会場の手狭さなどの問題もあったが、作品制作のライブ感など共催メディアとの連携も成功だった。	●夏休み期間の開催ということもあり、いかにファミリー層が美術館に入りやすい空気を作れるかが焦点となった。作家や共催メディアの協力によりそれが成功裏に終わった事は大きな成果であると考える。
○ベル・エポック、芸術の都としての巴里の様相がロートレックを中心によく伝わる展示であった。しかし、3階フロアと一部作品が藤田常設2階フロアへの混在した展示となったことは残念であった。	●「ロートレックとベル・エポックの巴里－1900 年」では、多くの作品を鑑賞していただくため、2F展示室の一部にも作品を展示した。作品数の多い展覧会などについては県民ギャラリーでの開催も視野に入れるなど、工夫していきたい。
○『日本の洋画 130 年』と『ロートレックとベル・エポック』のリアルアート2本と、エンターテイメント性の強い『深堀隆介展』というバランスの良いラインナップだったと思う。作品数によって2階展示室や県民ギャラリーを使った展開も効果的だったと思う。ただ巡回展の『ロートレックとベル・エポック』は、他都市では写真撮影を可能にし、SNS 等での PR を推奨していたが、秋田では頑なに撮影不可としており、その理由が不明。きわめて残念だと思う。	●「日本の洋画 130 年」や「ロートレックとベル・エポックの巴里－1900 年」のようなアカデミックな展覧会、そして「深堀隆介展　水面のゆらぎの中へ」のような幅広い世代に楽しんでいただけるような展覧会を、今後もバランス良く企画していきたい。2F・3Fの展示室内は通常撮影禁止としているため、「ロートレックとベル・エポックの巴里−1900 年」展も撮影は禁止とした。今後は撮影可能なエリアを設けるなどの工夫をしていきたいと考えている。
○既にマスコミに大きく取り上げてられていたこともあるが，「深堀隆介展　水面のゆらぎの中」は，来場者が子ども，若者，大人，高齢者など実に多彩で，誰もが楽しんで見て，おもしろさを味わっていた。熱気もすごかった。「ライブペインティング」の作品を螺旋階段に展示したことは，深堀氏の多様な造形力と理解しやすい魅力を示すことができた企画となった。作者の驚くような創造性と高い表現技術が融合していた同展は，集客の面からも，今後の企画にとって，大いに参考となる展覧会だったのではないか。自由に写真を撮れるコーナーの存在は，	●美術館に入りやすい雰囲気作りとしてライブペインティング作品の展示を提案したところ、快く承諾をいただけたのがありがたかった。集客において美術館の外からでも見えるものの設置は今後も機会があれば活用していきたいと考える。

来場者の同展と美術（アート）に対する親近感を非常に高めていた。 他の2つの特別展は，特に秋田県民にとって，普段観る機会が無い作家の作品を直接鑑賞できる機会となった。このような特別展も，秋田県にとって必要である。	
○企画や作品自体がどの展示会も素晴らしかった。中でも深堀隆介展は1Fで大々的に行い、来館者の部類も美術関係者に偏らない様子だった（職場で、売店で買ったメモ帳や文鎮を見て、声をかけてくる同業者が多数いました）。 一方で残念だったのは、ロートレック展です。展覧会時の評価にも書きました。藤田の大壁画の空間まで作品を下ろす必要はない。1Fでやれたら本当は良かった。作品量がたくさんだったし。特別展は、全て1Fで行った方が良くないか。 開館時から来訪を重ね、ここ4年間は運営委員としても出入りを頻回にさせていただき、県立美術館の構造がおおよそ分かってきた。3Fは狭いと思っています。藤田の企画展だけでも十分。空間に凝っているので、三角の空間もうまく生かして展示して欲しい。特別展の時期と同時開催があると、正直言って来館した甲斐やお得感があります（チケットは別でも）	●県民ギャラリーは展示環境や開催時期などから、開催が難しい場合もある。そういった条件も考慮しながら、県民ギャラリーを有効に活用していきたい。
○日本洋画 130 年珠玉の名品たち 日本美術会に大きな変化を与えた作品作家に興味津々。教科書にでてきた絵が目の前に沢山でした。県立美術館にふさわしい展示だった。	●教科書にも掲載されている画家の作品が多く出品されていたため、美術愛好家はもちろん美術館初心者も楽しめる展覧会となった。今後もこの様な展覧会を企画していきたい。
○深堀隆介展　水面の揺らぎの中へ 透明樹脂にアクリル絵の具で何層も重ねて描く斬新な作品を初めて観た。これからも新しい発見のできる作品展を期待したい。 ○ロートレックとベル・エポックの巴里 何度となく観たことのあるロートレック。フランス・パリの雰囲気が作品から伝わってきた。	●今年度に開催した展覧会では、美術との新しい出会い、そして再会（再会からの新しい気づき等）を提供できたのではないかと考えている。今後も来館者の心に残るような展覧会を企画していきたい。
（2）展覧会事業（企画展） **「平野政吉コレクション　絵画のなかの「街」」、「藤田嗣治　言葉をつむぐ」について**	
○企画展絵画の中の街平野コレクションをまとめて観られる絶好の機会、楽しませていただいた。	●今後も平野政吉コレクションの研究を重ね、展覧会の内容の充実に努めたい。
○藤田の作品にテーマを添えるところが面白いです。同じ作品を展示するにも、視点が変わります。観る人の教養が深まる。所蔵のものだけでも価値があるコンセプト。時には、外部から藤田の作品を借りることができるとよいかな。軽井沢の美術館からなどなど。藤田の作品いろいろに触れることができるのが県立美術館のコンセプトになると良い。	●藤田嗣治作品についても調査研究を進め、様々な視点から展覧会を企画していきたいと考えている。また、他館との連携も積極的に行っていきたい。

○旧県立美術館の頃、大壁画の上の階（３Ｆというのか？周囲のギャラリーみたいなことろ）は、小さいけど名画を飾ってなかったか？外部から借りたものだったのか覚えていないが、所蔵の物で、藤田の作品以外もあれば、企画展にしても良いかと思う。	●旧美術館の3Fには、西洋画を中心とした平野政吉コレクションを常設展示していた。これらの作品についても、今後企画展として公開をしていきたいと考えている。
○企画展は，本美術館の収集品や研究成果を示すもので，特に秋田県民に本美術館が責務を果たしていることを認めてもらう重要な機会と考えられる。 この観点から考えると，本年度の企画展は高く評価できる。特に，「藤田嗣治　言葉をつむぐ」は，各々の展示作品とキャプションとのつながりがよく，貴館学芸担当の日頃からの研究成果が示されていた。 キャプションであるが，展示作品優先からかもしれないが，小さくて控えめに感じられた。観覧者は「読む」ことも味わっているので，もっと大きくしてもよいし，図のようなものを一層取り入れてもよいのではないだろうか。字を大きくすることにも是非，躊躇しないでほしい。	●作品を優先し、キャプションの文字の大きさを小さく設定した。今回の展覧会は作品とともに藤田の「言葉」にもフォーカスした展覧会であり、「言葉」が重要な要素だった。このたびいただいた意見を参考に、今後は文字の大きさや図を取り入れるなど、より分かりやすい展示を心がけていきたい。
（3） 教育普及事業（セカンドスクール、各種教室等）について	
○藤田の「秋田の行事」ギャラリートークに参加。作品に描かれた秋田の伝統行事や風俗についてわかりやすく良くまとめられた内容であった。トークの内容について、藤田ファンの来館も多いと思うので、平野政吉についての関係などを入れたもう少し作家藤田嗣治像に特化した内容のトークヴァージョンがもう１パターンあってもいいのではないかと感じた。	●《秋田の行事》の定例ギャラリートークは、県内外の幅広い来館者が参加することを想定した内容となっている。出来る限り、作品の全体像を伝えられるように努めているが、季節や同時期に開催中の展覧会に応じて内容の幅を広げることも検討したい。
○美術作家協会展や公立美術大学の卒制展など、毎年恒例の展示会から鎌田俊夫さんの回顧展などまで、県民が気軽の美術作品に触れることのできる貴重なギャラリースペースだと思う。それだけに何をやっているのかを市民に知らせるポスター掲示板のようなものがエリアなかいち内に複数あってもいいと思う。	●美術館での鑑賞学習が難しい子どもたちや視覚支援学校の幼児児童生徒にも美術に親しんでもらえるよう、新たなレプリカの作成やオンライン解説など、さまざまな方法を検討していきたい。
○大壁画解説は、今後も美術館の醍醐味として続けていただきたい。 ○大壁画はより小さなレプリカは作れるか。外出しにくい子（訪問教育を受ける子ども）も手元で味わえる。触って味わえる大壁画（レプリカ）も良い。見えない子、見えにくい子などにも。（視覚支援学校の幼児児童生徒） ○オンラインの解説が実現できると、全然違う。レプリカを借りて、学校現場で味わえる。	
○大壁画の出前授業のアピールを引き続きお願いしたい。「眠れる女」のレプリカなども誕生すれば出前授業の幅も広がるのではないか。	
○今まで取り組んできた教育普及事業を続けていただきたい。	●今後も取組の充実に努めたい。

○子供が保護者に美術館へ連れていってもらう機会は，動物園や水族館より少ないと考えられる。このことから考えると，セカンドスクールは，全ての子供が美術（アート）を直に体験する機会を提供する意義深いものである。教育現場にとって，来場するための障害などが何なのかを聞き取ったりして，よりセカンドスクールの来場校を増やしてほしい。 　なお，近隣の保育園や幼稚園の園児が来場できるような取り組みもあってほしい。	●美術館と学校との連携がより深く行えるよう、教職員とも今まで以上に連絡を取り合っていきたい。 時間や人員の確保が必要であるが、学校側との意見交換の場なども設け、教育現場の実情を把握・対応し、セカンドスクールの利用増加につなげていきたいと考えている。 ●今年度、おしゃべりしながら作品を楽しめる「にぎやか鑑賞タイム」を設けた。小さい子どももその家族も気兼ねなく作品鑑賞を楽しんでいただくという企画だった。今後もこの企画を続け、小さい子どもにも親しみやすい身近な美術館を目指したいと思う。 また、近隣の保育園や幼稚園の園児にも気軽に来館していただけるよう、美術館側の環境の整備や園側への広報など積極的に行っていきたい。
②　**県民ギャラリーの利用状況**（利用者数、利用促進のための御提案など）について	
○利用者は定着しているので更に県民ギャラリーの展示を通して利用者が増える工夫が必要。（すぐ思いつかないが）	●新たな団体や個人の開拓は今後の課題でもあるため模索して参りたい。
○なかなか美術館の利用となると、それなりのスキルのものがふさわしい印象。本当は、特別支援学校の美術展もできたら良い。新美術館になってからＡＵを借りている様です（事情は詳しく分からずですみません）	●特別展での県民ギャラリー占有期間に毎年の展覧会を行っていた団体などが他のスペースへ移ってしまったケースもあるため、そういった団体への再使用の呼びかけ等も行っていきたい。
○アトリオンでは，小規模な展示も数多くある。小規模な展示も可能であることをアピールしてもよいのではないか。	●個展を開きたいが会場の広さと利用料金が希望と合わないという意見はいただいている。利用方法の拡充についても今後検討していきたい。
○美術作家協会展や公立美術大学の卒業制作展など、毎年恒例の展示会から鎌田俊夫さんの回顧展などまで、県民が気軽の美術作品に触れることのできる貴重なギャラリースペースだと思う。 それだけに何をやっているのかを市民に知らせるポスター掲示板のようなものがエリアなかいち内に複数あってもいいと思う。	●ホームページ等を通して県民ギャラリー使用予定の広報を行っているが、地域に方々の目に触れやすい媒体となるとチラシ、ポスターが根強いように感じる。効果的な広報についても今後検討させていただきたい。
○特別展での１階フロア未使用時の対応となるので、なかなか数字的な伸びは難しいのだろうと感じている。 昨今、文化創造館の活動が若者を中心に活発であることから、美術団体の高齢化対策を兼ね、世代や分野を超えたジョイント企画を組めないものか。　県、市、指定管理、と異なる管理者なので難しいとは思うけれど・・・。	●高齢化により解散する団体の話も聞こえている中で、どのように利用者を増加させていくかは課題として認識している。秋田駅前の芸術文化ゾーンによって、ご意見のような世代や立場を超えた企画が必要になっていくものと考える。

③　　その他	
○特別展３本については観覧者ターゲットや開催時期をしっかりとリサーチした内容とスケジュールであったと思う。しかし館蔵コレクションだけの企画展では入館者が少ない現状から、今後は学芸の企画力を活かした平野コレクション+アルファーの内容の検討を期待する。	●企画展では、藤田嗣治や平野政吉の紹介や顕彰することをベースとしているが、今後は県内の文化施設をはじめ近隣の地域とも協力・連携した展覧会を検討したい。
○『ロートレックとベル・エポック』のところに記したが、藤田の作品は別にして、著作権的に許される展示作品に関しては写真撮影を認め、SNS 等で拡散してもらうことを検討していただきたい。 『異界を開く～百鬼夜行と現代アート』（2016 年）のような現代アート展、『田園にて～秋田の風景・子ども・女たち』（2015 年）のような近代美術館、千秋美術館とのコラボレーションによる企画展が観たい。	●SNS による情報拡散は、重要な広報手段と考えている。撮影スポットをつくる、撮影可能なスペースをつくるなど、さまざまな方法を検討したい。 ●現代アート展の開催や、千秋美術館や近代美術館など周辺施設との連携も、今後行っていきたいと考えている。
○限られた予算や人員であることを考えると，貴館の取り組みは素晴らしいし，成果を挙げている。このことをあらゆる機会にアピールしてほしい。 　貴館学芸担当の研究成果などを電子ファイルなどの形で，ホームページにおいて示すことも必要ではないか。それは，長いものである必要は無いと考える。	●特別展や企画展での論考を魁新報社の文化欄にて掲載する機会があるが、図版を使用したものの場合、転載時に著作権など料金が発生するため実行に踏み切れていない。
○旧県立美術館の頃の雰囲気が伝わる企画展はどうか。今の美術館にない良さは、全体の空間の広さ。旧美術館自体の造りは藤田が希望・提案したことを、大壁画の解説に訪れた際に聞いた記憶。藤田が提案したというところが大きなこと。天井に向かってカーブになって天窓が付いているところ。大壁画の素晴らしさを感じた印象です。映像で振り返るコーナーとか。文化創造館の宣伝にもなって良いかと思います。市営のようですが。今思えば、美術館自体が大壁画の一部になっている印象です。	●旧県立美術館は、藤田嗣治の意向や平野政吉の想いが融和した建物でもある。今後は、旧県立美術館を検証する展覧会・教育普及事業なども検討していきたい。
○常設の大壁画ですが･･･ルーブル美術館所蔵の大壁画より大きくないか。ルーブル美術館を訪れた際に、「世界一大きな絵、これより大きな絵を見たことがあるか？」という問い掛けがあり･･･「秋田の行事」の方が明らかに大きかったです。藤田の大壁画は世界第何位、という文言があってもよいかも。	●直感的にわかりやすく、話題にもなりやすい解説として今後、調査のうえ検討したい。
○何十年も先に美術館がまた移転、となったら、同じ造りで旧県立美術館に戻ると良い。武道館のような屋根、日本風の造りが日本の美術館という感じでした。	●再び美術館移転の話が出る際には検討材料としたい。
○県立美術館の規模にふさわしい展覧会ができたらなと思う。	●特別展での展示作品数が少ないという意見はアンケートでもよく書かれているが、その中でも満足度を高めるべく配置や説明での工夫を懲らしていきたい。

５ 総括

皆様のご意見を謙虚に受け止めながら、全ての人に開かれた美術館を目指してまいりたい。今後も、県民の多様なニーズに応えられるよう、幅広い層に対応した多様な事業を通して、地域の活力向上に寄与したいと考えている。